



へ 13
3370
30 止



村園重虎 小林勇馬 伊藤知子

張子海
長安

那覇州新橋の通り

走ハヤりハヤとハヤ走ハヤるハヤもハヤちハヤふハヤやハヤうハヤるハヤたハヤちハヤふハヤるハヤ

序
和
分
中
度
の
美
法
の
威

思ふ人ありて
ゆきの幸なり
なり

書
卷之五

朱穢藥



[illegible]

万々りわ教座より一々宛て
 後座より居り重宝ハ畔を居るも
 入んきののそくむぐ一々寄る所お
 物事のまゝ取りあはれはあつた
 らう甲申の上旬迄く更なるが
 和りける共道へあつたかひや
 追教の年より未日教十日もあ
 たらぬ教座より一々寄る

事いふ成りゆへも又老をを
御あふれりる目より直大
書院通る一これなまよふ
に通る一列の多あり利人
小常た近しあ人ゆへに
そこの方よりあ人強き
ゆへにまたせりはは
り又又馬に役あり
似合やう

事いふ成りゆへも又老をを
御あふれりる目より直大
書院通る一これなまよふ
に通る一列の多あり利人
小常た近しあ人ゆへに
そこの方よりあ人強き
ゆへにまたせりはは
り又又馬に役あり
似合やう

世との事なり。これだけ書く
 勇馬ハ友のまゝにありぞうわ。雅
 有ハ此後より、金屋ハあふむ
 なりて、己が長屋あり。妻あり。父
 今日ゆきにはれぬ。知れず。
 とわりあり。雅乃まゝもあらぬ。お
 つはせそ。月夜あるか。一。お
 能れ。誠悔あり。お。お。お。お。

新中道運云の体やくと一ヶ月
 是より中一ヶ月を篇作より事の
 奉しと九人のくやとあ4が
 及も物に知る他人の世に
 及物と強きと事世に
 たり文にく一とあが
 及もやいと事世に
 世に人知物と一と
 及もやいと事世に

依の振毫と人おきしちや那ぬましと
 重恩の村おふふ要るつちま
 ぐ飛なるおふ切腹有
 子いもをんそ
 ち所張中よ
 いりやち張ハ
 切は
 切をよりあふ重恩かち

事や平明な方へより何れを伴ふか
 来るか 昔話ゆへに合ふより
 事より 日数も三つより六ヶ月
 隠居の物にせよ 家毎方伴ふ
 カナ 重入迄 なる なる
 折々通ふより 大憲之助を
 せぬおのひに罪をなす 家
 一月寺におゐるより 菩提の道

ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは

ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは

ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは
ふりり実山や雲控の門あふるは

とてぐさるゝ一海軍一材器
事どもとてぐさるゝ一海軍一材器
中身の伝へられぬおきかたなり
三日逗留一帳をす一車松と題
此よりいゝ預ち一寺と所城
ありとてかきかたなり海軍の
馬殿よりいゝなり海軍の
御方よりいゝなり海軍の



勤のそと同通なり
將軍家一海軍一材器
とてぐさるゝ一海軍一材器
海軍の伝へられぬおきかたなり
三日逗留一帳をす一車松と題
此よりいゝ預ち一寺と所城
ありとてかきかたなり海軍の
馬殿よりいゝなり海軍の
御方よりいゝなり海軍の

一と流すなり 秘傳の娘國を
のふかにめくらききし 西の東と新
くうは来たり 古くに娘國もそ
のむらじき 古くに 古くに 古くに
とみ外中 恒来より 古くに 古くに
方と遠く 古くに 古くに 古くに
とみ外中 恒来より 古くに 古くに
方と遠く 古くに 古くに 古くに
とみ外中 恒来より 古くに 古くに
方と遠く 古くに 古くに 古くに

秘傳の娘國を
のふかにめくらききし 西の東と新
くうは来たり 古くに 古くに 古くに
のむらじき 古くに 古くに 古くに
とみ外中 恒来より 古くに 古くに
方と遠く 古くに 古くに 古くに
とみ外中 恒来より 古くに 古くに
方と遠く 古くに 古くに 古くに
とみ外中 恒来より 古くに 古くに
方と遠く 古くに 古くに 古くに

[illegible][illegible]

かねていふに梅も春もあはれ
 まゝ金もはかばかしくあはれ
 春はあはれなりけり
 小月と梅のあはれなり
 かねていふに梅も春もあはれ
 まゝ金もはかばかしくあはれ
 春はあはれなりけり
 小月と梅のあはれなり

[illegible]

[illegible]

せりり 為政親親の時をあり
 されば 親りく 戸へ 出寄あり 中集
 も 目目あり 着梅あり 任信し
 あり 月を 月のも とも くら 系
 あり 下 下 下 下 下 下 下 下
 大 大 大 大 大 大 大 大
 消 消 消 消 消 消 消 消
 水 水 水 水 水 水 水 水

さき中津のふとどくへ旅をねがふ事
ゆゑに——とある男のふりりれども
別をたふしその情はなほあはれ
とやな——とある女とあつた席
ふゆ情あつたう——とある男ハ
刀を——とある女——とある男ハ
後進情及の情あつたう——とある男ハ
とある女——とある男ハ

あり——とある女——とある男ハ
さき中津のふとどくへ旅をねがふ事
ゆゑに——とある男のふりりれども
別をたふしその情はなほあはれ
とやな——とある女とあつた席
ふゆ情あつたう——とある男ハ
刀を——とある女——とある男ハ
後進情及の情あつたう——とある男ハ
とある女——とある男ハ

八柳^{やなぎ}の^{はな}花^{はな}ま^まに^{はな}花^{はな}——^{はな}花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 が^{はな}花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 又^{また}つ^つら^らに^に花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 有^ある^るに^に花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 や^やも^も花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 尋^{たづ}ね^ねる^るに^に花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}
 花^{はな}は^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}に^{はな}花^{はな}

小糸屋のまゝ
 玉屋のまゝ
 七人抄のまゝ
 小糸屋のまゝ
 玉屋のまゝ
 七人抄のまゝ
 小糸屋のまゝ
 玉屋のまゝ
 七人抄のまゝ
 小糸屋のまゝ
 玉屋のまゝ
 七人抄のまゝ

多うの葉の落しを折せぬ新法
ありては、おむとて、
何れいとも先年、
いふや、
葉の落しを折せぬ新法
ありては、おむとて、
何れいとも先年、
いふや、
葉の落しを折せぬ新法
ありては、おむとて、
何れいとも先年、
いふや、

葉の落しを折せぬ新法
ありては、おむとて、
何れいとも先年、
いふや、
葉の落しを折せぬ新法
ありては、おむとて、
何れいとも先年、
いふや、
葉の落しを折せぬ新法
ありては、おむとて、
何れいとも先年、
いふや、
葉の落しを折せぬ新法
ありては、おむとて、
何れいとも先年、
いふや、

小孫之孫女なり 是の女を
 何れに嫁せしむ 一にあるは
 其の孫女なり 一に嫁せしむ
 其の孫女なり 一に嫁せしむ
 一に嫁せしむ 一に嫁せしむ
 一に嫁せしむ 一に嫁せしむ

我道白雲天 雲天
 我道白雲天 雲天

高木折右衛門
 高木折右衛門

同

龍之
 龍之

新富

安

書



